

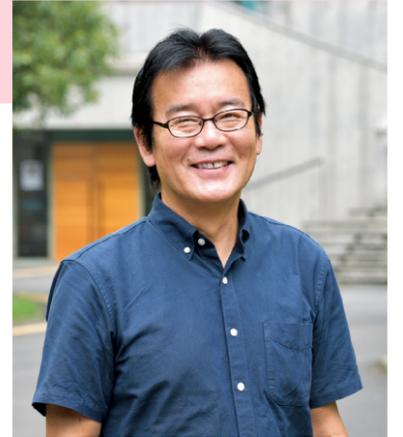


所在地/埼玉県上尾市
 学生数/約2100人
 学部/政治経済、人文、心理福祉
 大学院/文化総合学、政治政策学、心理福祉学

聖学院大学

CASE STUDY

入試の過程から学生を育てる 対話重視の総合型選抜



入試部入試広報特別担当 教授 **清水均**
 しみずひとし ●1981年上智大学文学部国文学科卒業。1988年上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得満期退学。上智大学非常勤講師、女子聖学院短期大学国文科助教授、成蹊大学非常勤講師等を経て、1999年聖学院大学人文学部日本文化学助教授、2004年より同大学同学部同学科教授。

聖学院大学は2021年度入試から、総合型選抜を対話を重視した内容に一新した。この背景にある考え、新しい入試にかける思いを聞いた。

本学ならではの価値を 基に入試改革を実施

2021年度入試において本学は、共通テスト利用入試の新規導入と、総合型選抜の内容の見直しを行ってまいります。共通テスト利用入試の導入は、新たな受験者層の開拓が目的ですが、総合型選抜の見直しは、本学を第1志望で受けに来る受験生に、もっと本学で学ぶ価値を意識して入学してもらうことにあります。

こうした見直しを行った理由には、創立30周年を機に本学ならではの価値について学内で話し合った結果が関係しています。

これまで本学は、「面倒見のよい大学」「入学後に学生が伸びる大学」であることを特徴として掲げてきました。しかし今では、多くの大学が同様の特徴を掲げている

ます。本学での「面倒見がよい」とは何か、「入学後に学生が伸びる」のはなぜかについて、学生・教員・職員が参加するワークショップで議論しました。その結果出て来た答えが、「学内に対話が多く、対話の中で得た気づきを、次の成長につなげていること」。つまり、本学ならではの価値は「対話」から生まれているのです。

確かに、講義後に学生が教員に進んで話しかけ、自身の理解を確認し深めている場面をよく見かけます。また、教職員や他の学生と話しして自分を変わったとする学生も多くいます。ならば、そうした機会を意識して増やせば、対話が活性化して本学の価値はより高まるはず。入学後からではなく、受験生の時から対話を通じて学生を育てていけば、さらに教育効果は高まり、広報面の効果も期待できます。このように考えて、入試を見直すことにしたのです。

対話する力を通して 学力の3要素を評価

対話を重視する入試として、単願の総合型選抜「アンバサダー入試」を新たに実施します。アンバサダーとは、「代表的な存在」という意味です。この入試では、本学に関心を持つ高校生に①ワークショップへの参加を通して本学の教育に接してもらい、②事前相談などで十分に理解を深めてから出願するように働きかけています。選抜では、③グループディスカッションや面接で「対話する力」などを評価します。対話は、相手の意見を受け止めて理解し、自分の考えを付け加えて相手に返す偶発的な行為です。その様子からは、とっさに相手の考えを理解する学力や、相手に学ぶ学習力、相手を思いやる人間性などが読み取れます。入試改革で求められている、学力の3要素を十分に測ることができます。

残念ながらコロナ禍で、ワークショップの開催を見送るなど、本年度は入試の実施形態を変更せざるを得ませんでした。LINEチャットや動画などを活用して、受験生と対話し、大学への理解を深めることに努めています。

対話を重視する本学の姿勢は、タグライン「一人を愛し、一人を育む」^{*2}で表現しています。学生一人ひとりと距離感を大切に、近すぎず、遠すぎず、見守りながら一人ひとりの可能性を育むことを、入試の段階から取り組み、本学のアンバサダーとなる学生を育てていきます。

「対話型」の総合型選抜で“対話”に満ちた大学教育に接続

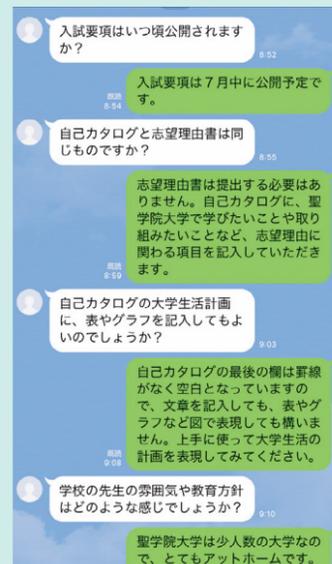
入 試			教 育
どういう高校生を	どういう方法で	何を評価して	タグライン
「対話」する姿勢や力のある高校生	アンバサダー入試 グループディスカッション、面接	他者の話を聞き、自分の考えを伝える力など	「一人を愛し、一人を育む。」 大学生活のウォーミングアップを行う 入学前準備学習 多くの授業を30人以下で行う 少人数教育 約10人の学生を1人の教員が担当する アドバイザー制度 など
日頃の授業を問題意識を持って受けていた高校生	課題解決入試 【講義方式】 講義ノート、発表、面接 【小論文方式】 小論文、面接	【講義方式】 講義を聞いて理解したことを伝え返す力など 【小論文方式】 文章を読んで理解したことを文章で返す力など	
「使える英語」の力を磨きたい高校生	英語特別入試 面接	自分の得意分野を伸ばしたいという熱意と向上心など	

注目! 入試広報も“対話重視”で 高校生の不安を取り除く

聖学院大学は、入試広報においても双方向のコミュニケーションを重視。本年6月には、高校生からの質問を受け付けるため、「LINEチャット個別相談」を設けた。普段使い慣れているSNSに窓口を設けることで、新しい選抜方式に興味を持った高校生が、気後れせず問い合わせできる環境を整えたのだという。

また、本年はコロナ禍の影響で、学校見学や説明会に多人数が参加するのが難しい。そのため、説明会の人数を絞って回数を多くするほか、Zoomを使ったWeb個別相談も拡充した。職員の負担は増えたが、例年よりも参加者が周りを気にせず質問しやすい状況になったそうだ。

「本年は入試改革元年であり、コロナ禍もある。受験生とのコミュニケーションを密にして、不安を取り除く必要があるだろう。また、年内入試で合格が決まった生徒のフォローも必要。入学前にオンラインカフェのような場を提供して、大学とつながっているという安心感を伝えたい」(清水教授)。



LINEチャット個別相談では、入試に関する質問だけでなく、学科での学びや大学生活についての質問も受け付ける(画像はサンプル)。

*1 2018年に創立30周年を迎えた *2 提供する価値や理念を端的に表現した言葉。キャッチコピー等とは異なり、普遍的な「価値の定義付け」を示す